

札幌市文化芸術創造活動支援事業の在り方について

★ 本日のテーマ

- 中間支援組織の活用の価値（事業の有用性）
- 適切な助成の規模や枠組み
 - ◆ 継続採択の必要性
 - ◆ 間接経費の在り方【伴走支援のコスト】
 - ◆ 事業の構成（創造活動（300万円）、公募型（200万円）、事業型（100万円）
 - ◆ 適切な助成単価、予算規模、補助率
- 創造活動支援事業の評価に係る指標

1 中間支援組織の活用の価値

- 本事業を実施する中で文化部として感じているメリットは以下の通り。
 - ◆ 採択しなかったアーティストに対し、アシスタント等の形で関わらせたり、本事業ではない別の形で一緒に何か取組をする方向で話をするなど非常に丁寧なフォローを行い、結果としてアーティストとのネットワーク形成につながる取組を行っている。
 - ◆ アーティストとのやりとりを見ていると、現場に近い中間支援団体であるからこそ、仲間のようなやり取りになっており、アーティストに寄り添った対応に繋がっている。
 - ◆ 採択事業者同士の連携も行われており、中間支援団体のネットワークの構築にもつながっている。
 - ◆ 既存の SCARTS 助成とは申請者の顔ぶれが違っており（SCARTS は団体が主、創造活動は個人）、これまで支援が届かなかった層に対して支援が実施できている。

2 適切な助成の規模や枠組み

(1) 継続採択の必要性

採択団体の一つであるコンカリーニョは、

- ①アーティストの教育への活用に向けた WS のパッケージ化
- ②教員にそうした WS を提供できることを知ってもらう（アート見本市）
- ③文化庁事業を活用した学校へのアーティスト派遣

というような将来イメージの一つを持っており、本事業が、単年度では自走まで至らないが、複数年度支援することで自走に繋がる可能性がある事業を採択しうる補助事業であることがわかった。

(2) 事業の構成について（創造支援、社会連携【公募】、社会連携【事業】）

- ◆ アーティストのレベルアップ支援を目指している「創造支援」はアーティストの成長が期待できる案件を支援できているものと認識。
- ◆ 社会連携【公募】も文化芸術ならではの価値を社会に提供しうる案件を採択できているものと認識。
- ◆ 社会連携【事業】も公募型では拾えない魅力的な案件を採択できしており、また、申請数も多い（事業型の今年度申請数は 22 件）ことから、アーティストニーズもある。

(3) 間接経費（採択事業者人件費）の在り方

○ 採択事業者の人件費比率は以下の通り

	総事業費	うち人件費	人件費比率
AIS プランニング	3,204 千円	1,080 千円	33.7%
コンカリーニョ	2,055 千円	750 千円	36.5%
COLA	2,001 千円	680 千円	34.0%

(4) 適正な助成単価・補助率・予算規模（資料 2、3 参照）

ア 助成単価

- ・ 他都市の助成単価は 20 万円～500 万円まで幅広く存在。
- ・ 単純に平均すると 1,244 千円。
- ・ 平均額から考えても事業型の上限 1,000 千円については妥当なラインと認識。
- ・ また、公募を伴うものは、今年度で言えば、AIS プランニング、COLA が 4 件、コンカリーニョが 6 件採択しており、採択件数から考えると増額しても問題ないレベルの単価と想定。

イ 補助率

- ・ 補助率については 1/2～10/10 までさまざま。
- ・ 但し、中間支援団体の活用を札幌市のアーツカウンシル機能の一部と位置付けるのであれば、中間支援団体から運営協力を受けているものとみなすことができるため、そのことを考慮した高い補助率であるべきと考えられる（公募型）。
- ・ また、事業型であっても実証実験の期間であることから、多様な主体が参加しやすいように 10/10 補助にしておくべきと想定。

ウ 予算規模

- ・ 補助総額も単純平均すると約 2,400 万円。
- ・ 本市の助成は、SCARTS 助成（600 万円）と創造活動支援事業（1,000 万円）。

(5) 評価検証について

○ 説明責任を果たすために本事業の評価検証の考え方を整理することは必要と想定。

○ 本事業の目的は

「文化芸術の効果的な社会連携を広げていくこと」
「アーティストの新たなチャレンジを引き出してレベルアップしてもらうこと」
「本市のアートマネジメント機能を高めること」

以上を踏まえると以下のような考え方がありうるものと思われる。

○ 活動指標としては

- ◆ 支援対象となったアーティストの数
- ◆ 他分野の関係者の数

○ 成果指標としては

- ◆ イベント参加者の意識変化の割合
EX. 「初めて来たけど、次も参加したい」など
- ◆ 本事業を経験したことで社会連携に前向きになった、またはレベルアップにつながったと考えるアーティストの数
- ◆ 本事業を経験したこととで成長したと感じる中間支援団体の数
- ◆ 本事業に関わったことで、文化芸術との関りに価値を感じた関係団体の数